

鹿島出版会 1999.2

## 学会消息

### ◇日本広報学会

○1997年第3回研究発表大会は11月29日(土)30(日)両日、本学において開催された。統一論題「グローバル時代のコーポレート・コミュニケーション」をめぐってパネルと討論や個別報告が行われた。本学部からは、立木茂雄教授が研究会代表報告として「震災ボランティアと社会的ネットワーク——危機管理研究の視点から」と題して発表した。そのほか、津金澤聰廣教授(理事)は開会・基調講演の司会、川久保美智子助教授(当時)は統一論題報告の司会、山本剛郎教授が自由論題報告、難波功士専任講師が研究会代表報告の司会をそれぞれ担当した。また懇親会の司会は芝田正夫教授と本学院本部大河内敏弘秘書課長が担当、大会を大いに盛り上げた。29日の昼休みには新築成った新図書館見学も行い、全国からのOB会員や関学来学は初めてという多くの遠来の会員から立派な図書館や美しいキャンパス整備について絶賛の言葉をいただいた。会場運営は芝田教授の指揮の下に学部会員全員で当たり、受付事務や雑務作業は津金澤ゼミの学生28名が担当した。なお準備段階から当日まで牧学部長、土屋事務長はじめ社会学部事務室関係者各位には大変お世話になり、お蔭で研究発表大会が盛大に無事終了することができたことを心から感謝したい。

### ◇数理社会学会大会

○1998年3月14日・15日に、本学・神戸三田キャンパスにおいて開催された。遠藤惣一教授と長谷川計二助教授のお世話のもと、本学部からは高坂教授、院生の豊島慎一郎、浜田宏らが参加した。

### ◇関西社会学会大会

○1998年5月23日・24日に甲南大学において開

催され、本学からは高坂健次教授が「阪神・淡路大震災に関わる知識社会学的問題—専門家と民衆の知識の自明性について」と題して研究発表をおこなった。なお、荻野昌弘助教授は同部会の司会をつとめた。

### ◇日本 CELSS 学会理事会

○1998年7月23日創立10周年に際し、役員の改選をおこなったが、創立以来理事を努めてきた本学杉山貞夫名誉教授は理事を退任、同学会の顧問に就任された。

### ◇Division of Geriatric Medicine, John A. Burns School of Medicine, University of Hawaii

○杉山貞夫名誉教授は、1998年8月4日高齢者支援技術に関する研究指導のため客員教授待遇で不定期にハワイ大学をおとずれ研究教育に従事されることになった。

### ◇世界ボランティア会議

○立木茂雄教授は、1998年8月25日、カナダ・エドモントン市アルバータ大学で開かれた世界ボランティア会議で、“The Kobe earthquake and the Renaissance of Volunteerism in Japan”と題する報告を行った。

### ◇第26回数理社会学会大会

○9月26日・27日に関西大学において開催され、本学からは高坂教授、豊島研究員が出席したのに加えて、院生の浜田宏氏が「相対的剥奪と準拠集団の数理モデル」と題して研究発表をおこなった。

### ◇国際人間工学会 (International Ergonomics Association)

○10月2日ケープタウンで開催された国際人間工学会 (International Ergonomics Association) 定例理事会において、“IEA Fellowship”の候補者として杉山貞夫名誉教授が推挙され、その決定がなされた旨通知があった。以後、同教授はIEA Fellowとして活動される。なお同教授は1982年から85年の間、同会の会長として人間工学の国際的発展に寄